

助詞の役割…解答・解説編

練習問題① 「に」の識別

○答え…オ

- アの「に」は、**作用の結果や変化**を表します。「くに変化した」「く成長した」などと言いかえることができます。
- イとキは、**場所**を表す「に」です。「で」や「へ」と同じ意味になります。オや例文との違いに気付きましたか？
- ウの「に」は**動作を受ける相手**を示しています。「くされる」という**受け身表現**の文章で使われます。
- エは**原因や理由**、**きっかけ**などを表しています。「くのために」「くのせいで」などに置きかえてみましょう。
- オの「に」は例文と同じ役割を持っており、**動作の目的**を表しています。「くするために」と言いかえることができます。
- カは**動作が向けられる相手や対象**を示す「に」です。ウの「に」と反対の役割を持っています。「へ」に置きかえられるものもあります。

- クの「に」は**比較の対象**を示しており、「あの子」と「アイドル」を比べています。「と」と置きかえることもできます。

- ケの「に」は助詞ではなく、**形容動詞「静かだ」が活用した形**です。

「に」の種類と識別			
品詞	役割・意味	見分け方・言いかえなど	例文
助詞	作用の結果 ・変化	「～に変化した」 「～に成長した」	・将来は医者になる。 ・信号が青になる。
	場所	前には「場所」を表す名詞が来る 「～で」「～へ」	・海に行く。 ・校庭に集まる。
	動作を受ける 相手	受け身表現の文章で使われる	・犬にかまれる。 ・親にほめられる。
	原因・理由 ・きっかけ	「～のために」「～のせいで」	・突然の死におどろく。 ・貧しさに苦しむ。
	動作の目的	「～するために」	・焼肉を食べに行く。 ・山登りに出発する。
	動作を向ける 相手・対象	「へ」に置きかえられる ものもある	・彼にあげる。 ・君に頼む。
	比較の対象	「と」に置きかえられる ものもある	・芸能人にそっくりだ。 ・彼にまさるものはない。
助詞「のに」 の一部	逆接の関係	「～が（しかし）」「～けど」	・調子は良かったのに負けた。 ・何度も言ったのに！
形容動詞 の一部	「～だ」が活用 した形	活用する	・部屋がきれいになった。 ・波がおだやかになる。
動詞の一部	「死ぬ」が活用 した形	活用する	・有名俳優が死に、とても驚いた。

→ 図(1) 「に」の種類と識別 (筆者作成、転載は記事名を明記の上で許可)

練習問題② 「の」の識別

○答え…エ

「の」の種類と識別			
	判別方法	「AのB」	例
助詞	名詞を修飾する		彼女のペン
	「こと」「もの」などの名詞に言いかえられる	「Aこと（もの）B」	走るのが好き
	「が」に言いかえられる	「AがB」	彼の走る姿
	「の」の前後が対等な関係	A=B	ペットのポチ
その他 (他のことばの一部)	例：連体詞の一部	「AのB」という形にならない	この・その あの・どの

- アとイで使われている「の」は、後に続く名詞（「ペン」と「弟」）を**前の名詞が修飾**していることを示しています。
- ウの「の」は、「の」の**前後が同じもの（対等・並立関係）**であることを示しています。つまり「賞品||金メダル」ということです。
- エの「の」は例文と同じ、**主語を表す役割**を持つ「の」で、「が」と言いかえることができます。
- オで最初に使われている「の」は**「もの」と言いかえることができます**。他にも、「こと」「や」とき「ひと」などの名詞に言いかえられる「の」があることを覚えておきましょう。また、二つ目の「の」は助詞ではなく**連体詞「この」の一部**です。
- カの「の」は**疑問を表す役割**を持っています。

→ 図(2) 「の」の種類と識別
(筆者作成、転載は記事名を明記の上で許可)

練習問題③ 「で」の識別

○答え..ア・ウ

● アとウの「で」は**場所**を表しており、例文の「の」と同じ役割を持っている。
ます。

● イの「で」は**手段や方法**を表す「で」です。「くを使って」という意味を表しています。

● エの「で」は**時間**を表す「で」です。
他にも「車に乗って一時間で着く」

「時速80kmで走る」などの使われ方があります。「くの速さで」などとおぎなうって考えましょう。

● オの「で」は**原因**を表しています。

「くのせいで」「くのために」などと言いかえることができます。

● カは**材料**を表す「で」です。

「く製で」「く作りで」などと

言いかえることができます。

「で」の種類と識別		
役割・意味	見分け方・言いかえなど	例文
手段・方法	「～を使って」などと 言いかえられます。	・鉛筆で書く。 ・車で行く。 ・大声で呼ぶ。
場所	前には「場所」を表す 名詞が来ます。	・海で遊ぶ。 ・大阪で試合をする。
時間	「～の速さで」などをおぎなう ことができます。	・音速で飛ぶ。 ・あと2時間で着く。
原因	「～のせいで」 「～のために」など	・テスト勉強でいそがしい。 ・かぜで学校を休む。
材料	「～製で」「～作りで」	・木で作られた時計。 ・人体の70%は水で成り立つ。

→ 図③ 「で」の種類と識別

(筆者作成、転載は記事名を明記の上で許可)

練習問題④ 「から」の識別

○答え…ウ・カ

- アとイの「から」は**材料・原料・成分**を表しています。ハンバーグの材料が豆腐であるということです。
- ウとカの「から」は**動作が発する場所や人**を表しており、例文と同じ役割を持っています。特にカが同じであることを注意してください。
- エとキはものごとの**順番や範囲**を表す「から」です。ウやカの「から」と間違えやすいので気を付けましょう。
- オの文中の「から」は**原因や理由**を表しています。

助動詞の識別・解答・解説編

練習問題① 「れる・られる」の識別

助動詞の「れる・られる」には**受け身**、**可能**、**自発**、**尊敬**という四つの意味があります。このうち、例文の「れる」は**受け身**の意味を表しています。

○答え…ア・カ

- ・ **ア・カ**は**受け身**の意味を持っています。受け身とは他の誰かに何かをされるという意味です。アの場合は動作を行っているのは「先生」で、その動作を受けているのが「自分」になります。
- ・ **イ・ク**は**尊敬**の意味を持っています。この使い方では、動作を行う主語が敬う対象（「国王」や「先生」など目上の人）になっています。
- ・ **ウ・キ**の「れる・られる」は**可能**の意味です。この使い方では「～することができる」と言い換えることができます。
- ・ **オ・ケ**は**自発**の意味です。自発とは自然と様々な気持ちが変わってくるということを表しています。
- ・ **エ**は引っかけです。「敗れる」は助動詞ではなく、それ自体で一つの動詞です。

練習問題② 「ない」の識別

「ない」には、助動詞「ない」と形容詞「ない」、その他に形容詞「くない」の一部があります。今回の問題の場合、例文の「ない」は助動詞です。

助動詞と形容詞を見分けるテクニックとして、「ない」を「ぬ」と言いかえても意味を通じるものは助動詞というものがあります。ただし、「いない」は「おらぬ」、「しない」は「せぬ」とそれぞれ言い換えられる（つまり助動詞である）ということに注意しましょう。

○答え…イ・ウ・キ

- ・ア・オの「ない」は形容詞です。「ない」の前になる「上手く」や「も」はそれ自体で一つの文節を作っており、「ない」も文節を作っています。つまりこれらは自立語で、形容詞であることが分かります。

「ない」の種類と識別

品詞	見分け方	例文
助動詞「ない」	<ul style="list-style-type: none"> ・「ない」だけで文節を作らない（付属語である） ・「ぬ」に言い換えられる 	<ul style="list-style-type: none"> ・悪いことはしない。 ・今夜は眠らない。
形容詞「ない」	<ul style="list-style-type: none"> ・「ない」だけで文節を作る（自立語である） ⇒「ない」の前に「ネ」と入れても意味が通じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・僕の消しゴムがない。 ・この建物は新しくない。
形容詞の一部	<ul style="list-style-type: none"> ・「～ない」で一単語である 	<ul style="list-style-type: none"> ・あの場所はきたない。 ・そんなことをして情けない。

→図(4) 「ない」の種類と識別
 (筆者作成、転載は記事名を明記の上で許可)

- ・イ・ウ・キは**助動詞「ない」**です。これらの文章では直前の語と合わせ「泳げない」「いない」「分からない」で一文節を作っており、「ない」は**付属語**であると分かります。

- ・エ・カは**形容詞の一部**であり、「つまらない」「あぶない」で一つの単語です。

練習問題③ 「ようだ」の識別

助動詞の「ようだ」には**不確かな断定（推定）、比喻、**

例示という三つの意味があります。例文の「ような」は

例示を表す助動詞が活用したものです。比喻と例示は見

分けるのが少しむずかしいので注意しましょう。

○答え…エ・カ

- ・ア・ウの「ような」は**比喻**を表しています。
- ・イ・キに使われているのは**不確かな断定（推定）**を表す「ようだ」です。
- ・オ・カは**例示**の「ようだ」です。
- ・エの「ように」は**願望や注意をうながす表現**です。

助動詞「ようだ」の種類と識別

意味	意味	見分け方	例文
不確かな断定 (推定)	「～らしい」 (おそらく間違いない)		彼は来ないようだ。 (ほぼ間違いなく彼は来ない)
比喻	「AはBのようだ」 ⇒AをBにたとえる	AをBという別の物でたとえる A=Bと表すことができない	彼はセミのようにうるさい。 (彼≠セミなので比喻)
例示	「AはBのようだ」 ⇒AはBの一つの例	AはBというグループに属している A=Bと表すことができる	アリのように小さい虫。 (アリ=小さい虫なので例示)

←図(5) 「ようだ」の種類と識別（筆者作成、転載は記事名を明記の上で許可）

練習問題④ 「た(だ)」の識別

この問題は、助動詞「た(だ)」を意味ごとに分類する問題です。助動詞の「た(だ)」には、主に**過去**、**完了**、**状態**という三つの意味があります。このうち、例文は**過去**を示す「だ」です。

○答え…ア・ウ

・ア・ウの「た」は**過去**を表しています。動作が起きたのがすでに以前の出来事であることを示しています。今回の場合、動作が起きたのは「昨晩」や「五年前」です。

・イ・エは**完了**を示す「た(だ)」です。ちょうどその時点で動作が終わった(イの「たった今」)こと、動作が終わった直後である(エの「さつきばかり」)ことを示しています。

・オ・キの「た」は**状態**の意味で、その状態がずっと続いていることを示しています。この「た」は「〜ている」と言いかえることもできます。

・カの「た」は時間に関係なく、確認する気持ちを表しています。

練習問題⑤ 「だ」の識別

「だ」には主に、**断定の助動詞の「だ」、助動詞「た」**がにぎったもの、**形容動詞の言い切りの形「〜だ」**の三種類があります。例文の「だ」は**形容動詞の言い切りの形の一部**です。この形容動詞と断定の助動詞「だ」は見分けるのがむずかしいこともあるので注意してください。

○答え…ウ・カ

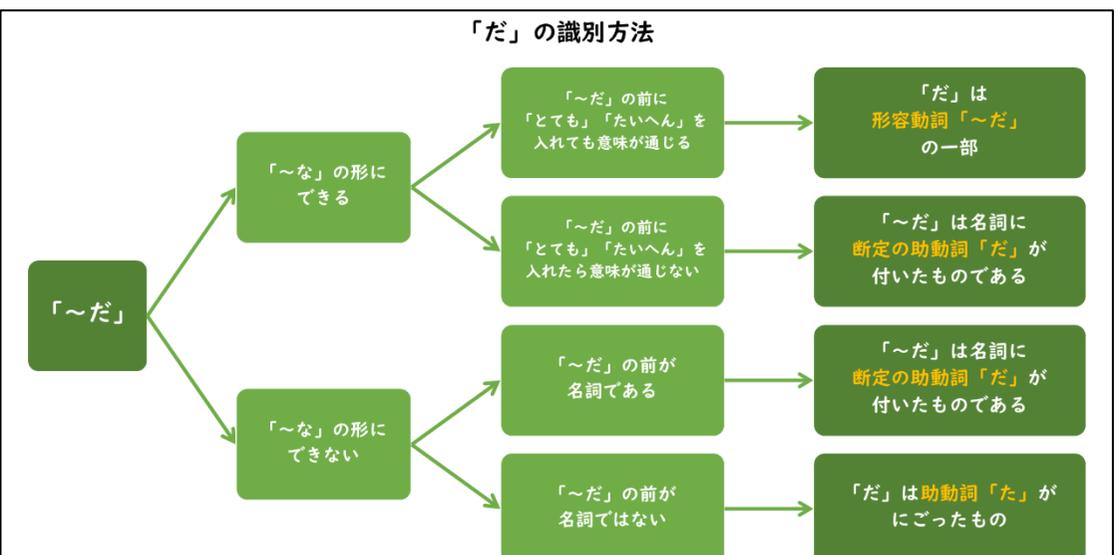
- ・ア・オは**過去**を示す助動詞「た」がにぎったものです。この助動詞

「た」の意味については、練習問

題④の解説もしっかり読んでおきましょう。

- ・イ・エ・キは名詞（「自由」「も」の「安全」）に**断定の助動詞「だ」**が付いたものです。

- ・ウ・カの「だ」は**形容動詞の言い切りの形の一部**です。



→図(6) 「だ」の識別方法(筆者作成、転載は記事名を明記の上で許可)

練習問題⑥ 「そうだ」の識別

助動詞の「そうだ」には主に、**様態**と**伝聞**という二つの意味があります。またその他に、**形容動詞「くだ」の一部**などもあります。例文の「そうだ」は**様態**の意味です。伝聞と様態を見分けるには、「そうだ」の直前に注目しましょう。 「そうだ」の前が言い切りの形になっていれば「そうだ」は伝聞、言い切りの形でなければ様態です。

○答え…イ・ウ・カ

・ **ア・エ**の「そうだ」は**伝聞**の意味です。伝聞とは他人からものごとを伝え聞いたということを示しています。

・ **イ・ウ・カ**は**様態**の「そうだ」です。様態とはものごとの様子から判断し「くだろう」と推測しているという意味を表しています。

・ **オ**の「そうだ」は、**形容動詞「かわいそうだ」の一部**です。

・ **キ**の「そうだ」は**感動詞**です。また、クは副詞の「そう」に助動詞「だ」が付いた形であり、どちらも助動詞ではありません。